

要望書「患者の声を、がん対策へ一、なぜ受動喫煙防止条例が必要なのか」の要旨

■要望事項■

【1、たばこ対策】

【道議会】は、受動喫煙ゼロ、建物内禁煙等を目標とした受動喫煙防止条例を速やかに制定する。飲食店等は厚生労働省の判定基準による分煙等の表示とする。【道や市町村】は、禁煙、完全分煙の店を推奨する。市町村は、駅周辺や通学路の喫煙とコンビニ等の入りの灰皿設置を禁止する。【道】は、企業等に、職場禁煙の啓発を促し、取り組みの公表を働きかける。【市町村】は、企業は、禁煙治療を勧奨する。【道】は、国に、たばこの値上げを求める。完全分煙の喫煙ボックスを事業者の負担なく設置できるように働きかける。

【2、早期発見、がん検診】

【道や市町村】は、コール・リコール等効果的な受診勧奨を進め、受診率向上に努める。【道や市町村】は、地域事情に応じた検診実施方法や精度管理向上に努める。【道】は、市町村の検診成績を公表し、道民に情報を積極的に提供する。【道】は、職域検診の実態を把握し、科学的根拠に基づく検診実施を支援する。【市町村】は、検診無料券の年齢を引き下げ、積極的に配る。【市町村】は、検診受診機会の拡大に努め、対策型検診を無料にする。【市町村】は、精密検査受診率を100%にする。

【3、希少がん、難治性がん】

【道】は、正しい情報提供の場を設ける。【道や市町村】は、専門医がいる病院への通院交通費や宿泊費を助成する。【道】は、医療連携体制等の情報を提供する。【道】は、専門医を育てる。

【4、小児、AYA世代のがん】

【道】は、症例や罹患率等の情報を提供する。【道や市町村】は、小児患者の通院や面会家族の支援サービスを行う。【道や市町村】は、院内学級高等部設立等の情報を提供する。【道、市町村、企業、メディア】は、AYA世代向けの社会保障制度を周知する。【道や市町村】は、専任相談員を配置し、AYA世代のがんサロンを設け、ピアサポーターを育てる。【道】は、治療に伴う妊育性の影響等の情報を提供する。【道や市町村】は、メディアに、AYA世代の言葉を広めるよう働きかける。

【5、高齢者のがん】

【道】は、高齢患者に適した診療方針の策定を進める。【道】は、高齢患者が情報を入手できる方を講じる。【道や市町村】は、地域に合った医療と介護の連携体制の構築を進める。【道】は、高齢者のがん対策に関する住民への教育等を進める。

【6、診断時からの緩和ケア】

【道】は、国に、治療の副作用や後遺症等の医療費の保険適用拡大を要望し、提供体制を整える。【道】は、来年のサミットまでにケア提供の実態を把握し、あるべき姿の議論の場を設ける。【拠点病院】は、6年以内に外来スクリーニングを行う。

【7、相談支援、情報提供】

【道】は、ピアサポーターを育て、病院への派遣体制を整える。【道】は、診断時に相談先を必ず伝えるシステムをつくる。【拠点病院】は、患者等が相談支援センターをいつでも気軽に活用できるように体制を整える。

【8、地域での患者支援、子育て世代のがん】

【道や市町村】は、受診時に院内託児サービスが受けられるよう支援する。【道や市町村】は、育児援助のセンターを積極的に広報し、利用料を助成する。【道や市町村】は、院内相談所、患者会等の活動を積極的に広報する。【道や市町村】は、遠隔地から拠点病院に通院する交通費の補助金を設ける。

【9、就労など社会的な問題】

【道】は、診断時点で治療と仕事の両立に関して患者に助言する体制づくりを進める。【道】は、治療しながら働くことへの社会の理解が深まるよう職場や地域に啓発する。【道】は、国の指針や両立支援策の実行を企業に働きかけ、表彰や助成等で支援する。【道】は、国に、短時間勤務等の多様な勤務形態の選択の推進、病気休職等の法制度の充実を要望する。【道】は、傷病手当金の受給期間や障害年金の請求要件の見直し等の患者負担軽減策を国に要望する。【道】は、アピアランス(外見)の支援策を充実させる。【道】は、病院や公的施設等での相談体制の拡充を図り、ニーズの把握や満足度の向上に取り組む。

【10、子どものがん教育】

【道】は、保健体育の「がん」分野を充実強化する。【道】は、2019年までにがん体験者等の講師を育て登録システムをつくる。【道や市町村】は、小中高生へのたばこの害の教育を促す。【道や市町村】は、がんを通して命の大切さ等の心を育てる教材を研究する。【道や市町村】は、実施状況や教育効果を測り、随時評価し教材等を改訂する。【道】は、道、医師、患者・経験者等の検討会を設けて教育体制をつくり、20年度から実施する。

【11、成人者への普及啓発】

①【道や市町村】は、積極的にがん情報を提供する。【道や市町村】は、健康であることを前提とした諸制度を見直し、国にも働きかける。【道や市町村】は、メディアに、科学的根拠に基づく正確な情報提供を働きかける。

※AYA世代 おおむね15歳から30代までを指す

北海道がん対策「六位一体」協議会(会長・長瀬清北海道医師会会長)が3日、2回目の北海道がんサミット(8月、札幌、約210人参加)で話し合った声をまとめた要望書「患者の声を、がん対策へ一、なぜ受動喫煙防止条例が必要なのか」(全53項目)を、高橋はるみ知事、秋元克広札幌市長、大谷亨道議会議長に手渡し、道や市町村の計画や施策での実現を求めました。がん患者を中心に、医療者、行政担当者、議員、企業、教育関係者、メディアなどが力を合わせてがん対策を進める同協議会。受け取った3人のコメントと、要望書の内容を紹介し

(編集委員 岩本進)

患者の声を対策に

「六位一体」協議会 知事らに要望書

北海道がん対策「六位一体」協議会の構成団体(計13団体、順不同)

- 北海道がん患者連絡会
- 北海道医師会
- 北海道歯科医師会
- 北海道対がん協会
- 北海道健康づくり財団
- 北海道がんセンター
- 北海道・札幌市
- がん対策北海道協議会議員の会
- 北海道商工会議所連合会
- 北海道経済連合会
- 北海道文化放送
- 北海道新聞社



高橋はるみ知事(右手前)に、要望書を手渡した「六位一体」協議会の長瀬清会長ら4人＝道庁。メンバーはこの後、札幌市の秋元克広市長、大谷亨道議会議長にも要望書を渡した

がんを防ごう

受動喫煙議論を促す

高橋はるみ知事
今いたしたい要望書の1

一つ(項目)は大変重要なこと。特に北海道は喫煙率が高い。喫煙者には受動喫煙です。本人は

吸う気がないのに、周りに吸っている方がいるが故に、煙を吸ってしまう。これをストップさせたいというのが、受動喫煙防止条例の意味だと思っています。(条例制定を検討中の)

飲食店なども対策を

秋元克広札幌市長

を市民に広めるのはもちろんだが、少なくとも室内での禁煙や完全分煙を徹底する必要があります。スポーツ大会

議会全体で取り組む

大谷亨道議会議長

ん対策を進めていきたいと考えています。北海道でも2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなっています。しかも喫煙率が非常に高い。いま私たちは、受動喫煙に対する条例について検討している最中です。きょうの要望書を真に受け止め、今後ともいろいろな形で「六位一体」協議会のみならず、ご意見をいただきながら、議会としても(がん対策に)真剣に取り組んでいきたい。

たばこの害に対する理解

後、受動喫煙を含めた(がん)対策を進めていきたい

検討している最中です。きょうの要望書を真に受け止め、今後ともいろいろな形で「六位一体」協議会のみならず、ご意見をいただきながら、議会としても(がん対策に)真剣に取り組んでいきたい。